（別添資料１）

事業所名	P.P.P.ヒマワリ！福田	支援プログラム	作成日	2024 年	8 月	6 日

法人（事業所）理念		私たちP.P.Pは自由を奪う区別や制約を取り除き、関わる全ての人の当事者参加が当たり前の世の中を実現する。
支援方針		子どもが安心して過ごせる環境において、モンテッソーリ教育の原則を取り入れ、子どもの自己教育力を支援します。特に、子ども一人一人の発達特性や興味・関心を尊重し、主体的な自己選択・自己決定を促進することを目指します。
営業時間		10 時 0 分から 19 時 0 分まで　送迎実施の有無　（あり）　なし　土曜日のみ
		支　援　内　容
本	健康・生活	＜健康状態の維持・改善＞ 1. 健康状態の把握と対応 観察と記録：子どもの行動や健康状態をきめ細やかに観察します。特に、日常のルーチンの中での変化や小さなサインにも注意を払い、記録を取りながら保護者と共有します。 意思表示の支援：自閉症の子どもが意思表示をしやすいように、視覚的な手がかりを用いてコミュニケーションをサポートします。これにより、子ども自身が意思表示ができるように支援します。 感覚統合：感覚統合の視点から、子どもの感覚過敏や鈍感に配慮し、ストレスを軽減する環境を整えます。適切な感覚刺激を提供し、安心して過ごせる場を提供します。 2. 日常生活の練習 日常生活のスキルアップ：子どもが日常生活の中で自己管理能力を高めることを支援します。例えば、ボタンを留める、紐靴が結べる等具体的な活動を通じて、日常生活の練習を行います。 多感覚アプローチ：視覚、聴覚、触覚など多感覚を利用した活動を取り入れ、子どもの機能を全体的に発達させます。個々の子どもの特性に合わせた活動を計画し、実施します。 ＜生活習慣や生活リズムの形成＞ 1. 基本的な生活習慣の形成 視覚的スケジュール：日々のルーティンを視覚的に示すスケジュールを使用し、子どもが一日の流れを理解しやすくします。これにより、安心感と予測可能性を提供します。 健康な食事の習慣：栄養バランスの取れた食事の提供と共に、食事の準備や片付けを通じて生活習慣を形成します。 食具の使用：個々の子どものニーズに合わせた自助具を使用します。また、微細運動の個別活動を通じて、手指の運動機能を向上させます。 2. 生活リズムの形成 環境の整備：子どもの秩序感を大切にし、整然とした環境を整えます。これにより、子どもが安心して活動に集中できるようにします。 自立の支援：モンテッソーリの「自己選択と自己決定」の原則を用いて、子どもが自分で選択し、行動する機会を提供します。これにより、自立した生活リズムを身につけます。 ＜基本的生活スキルの獲得 1. 生活に必要な基本的技能の獲得＞ 実生活の活動：日常生活の活動を通じて、食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、清潔保持などのスキルを身につけます。具体的な道具や活動を提供し、子どもが実践的に学べる環境を整えます。 段階的な指導：スモールステップでの指導を行い、子どもが自信を持って基本的な生活スキルを習得できるようにします。成功体験を積み重ね、自己肯定感を育みます。 2. 構造化等による生活環境の調整 環境の構造化：時間や空間を子どもに分かりやすく構造化します。視覚的な手がかりや区分けされた作業エリアを設けることで、子どもが環境を理解しやすくします。 遊びを通じた学び：遊びを通じた学びを促進します。子どもが興味や関心を持って取り組む活動を提供し、自然な形で生活スキルを習得できるようにします。
	運動・感覚	＜姿勢と運動・動作の基本的技能の向上＞ ・姿勢保持と運動・動作の改善 運動教育：子どもの体幹の強化や姿勢保持を促進します。体操教室や少人数での運動遊びを実施し、自然な動作の中で姿勢や運動技能を向上させます。 運動の基本スキル：日常生活に必要な運動スキル（例：立つ、座る、歩く、物を持ち上げる）を段階的に習得できるよう、具体的な活動を通じて指導します。これにより、筋力の維持・強化を図ります。 ＜姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用＞ ・補助用具の活用 姿勢保持装置：必要に応じて姿勢保持装置やその他の補助具を使用し、子どもが安定した姿勢で活動に参加できるよう支援します。これにより、運動や動作が困難な子どもにも適切なサポートを提供します。 環境整備：子どもが自立して活動できるように工夫します。適切な高さの家具や手すりを設置し、子どもが自分で動きやすい環境を提供します。 ＜保有する感覚の活用＞ ・感覚教育 感覚教具：感覚教具を使用し、子どもの感覚を刺激し、発達を促します。これにより、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚などの感覚を十分に活用できるよう支援します。 感覚遊び：感覚遊びを通じて、子どもが自分の感覚を楽しみながら活用できるようにします。水遊び、粘土遊びなどを取り入れ、感覚の統合を図ります。 ＜感覚の特性への対応＞ ・環境調整 感覚の過敏への配慮：子どもの感覚特性に応じた環境調整を行います。感覚過敏の子どもには、音や光を抑えた静かな環境を提供します。 個別対応：各子どもの感覚特性に応じた個別の支援計画を作成し、適切な対応を行います。子どもが安心して活動できるように、常に観察と調整を行います。
	認知・行動	＜認知の特性についての理解と対応＞ ・一人一人の認知の特性の理解 観察と記録：子どもの行動を観察することで、子どもの認知の特性を詳細に把握し、個別の特性に応じた支援を行います。子どもの行動や反応を記録し、特定のパターンや傾向を理解します。 個別化されたアプローチ：子ども一人ひとりの特性に応じた個別支援計画を作成し、特にこだわりや偏食に対しては、視覚的なスケジュールや選択肢を提供して、安心感を与えます。 ＜対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得＞ ・感覚の活用や認知機能の発達 感覚教具：視覚、聴覚、触覚などの感覚教具を使用し、子どもが感覚を通じて情報を適切に取得できるよう支援します。これにより、認知機能の発達を促進します。 感覚体験の多様化：自然観察、音楽、アートなどの活動を通じて、感覚体験を多様化し、子どもが感覚情報を豊かに取り入れる機会を増やします。 ・知覚から行動への認知過程の発達 反復と実践：繰り返しの原則を用い、子どもが知覚した情報を実践的に使い、行動に移す練習を行います。例えば、日常生活の中での簡単な活動を反復することで、認知から行動へのスムーズな移行を支援します。 具体的な手掛かりの提供：視覚的、聴覚的な手掛かりを提供し、子どもが環境や状況を理解しやすくします。これにより、適切な判断や行動につながるよう支援します。 ・認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 具体的な活動：子どもが物の機能や属性、形、色、音、大きさ、数、重さ、空間、時間などの概念を具体的に学べるよう支援します。 日常生活との関連付け：これらの概念を日常生活の中で応用し、認知や行動の手掛かりとして活用できるようにします。例えば、料理や掃除といった活動を通じて、数や時間の概念を自然に学びます。 ・自己訂正：教材・教具は自己訂正ができる工夫がされている。大人が間違いを訂正しなくても自分で間違いに気づくようにする。また、大人が訂正する場合は肯定的な表現で伝える。

本人支援	言語 コミュニケーション	＜コミュニケーションの基礎的能力の向上＞ 目的: 子どもの特性や興味・関心等に応じて、言葉によるコミュニケーションだけでなく、言葉以外のコミュニケーション手段を用いて意思疎通を図る能力を身につける。 活動例: 表情カード: 様々な感情を示す表情カードを使い、表情の読み取りとその表現を学ぶ。 ＜言語の受容と表出＞ 目的: 話し言葉や文字・記号を通じて、相手の意図を理解し、自分の考えを伝える能力を養う。 活動例: 物語の読み聞かせ: 絵本を用いて、物語の内容を視覚的に示し、理解を深める。 絵カード: 絵カードを使って物の名前や動作を学び、言葉の受容と表出を支援する。 質問応答ゲーム: 日常生活に関連する質問を通じて、相手の意図を理解し、適切に応答する練習を行う。 ＜言語の形成と活用＞ 目的: 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけることで、自発的な発声を促し、体系的な言語能力を育む。 活動例: 日常生活の活動: 日常生活教具を用いて、具体的な物事に言葉を結びつける練習をする（例: 床拭き、衣服の着替え、カバンの整理）。 五感を使った学び: 香り、音、触感など五感を活用した活動を通じて、言葉の形成を支援する。 経験の言語化: 子どもが経験したことを絵や写真と共に言葉で説明する活動を行う。 ＜ 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得＞ 目的: 相手と同じものに注意を向け、その行動や意図を理解・推測する力を養う。 活動例: 共同作業: 他の子どもと協力して遊ぶことで、共同注意と相互理解を促進する。 ロールプレイ: さまざまな状況でのロールプレイを通じて、相手の意図を読み取る練習をする。 ＜ コミュニケーション手段の選択と活用＞ 目的: 多様なコミュニケーション手段を使いこなし、意思の伝達を円滑に行う。 活動例: 視覚支援ツールの活用:写真や絵カードを用いて、意思疎通を支援する。 ＜状況に応じたコミュニケーション＞ 目的: コミュニケーションを円滑に行うために、状況や相手に応じた適切な対応を学ぶ。 活動例: ｓｓｔ: 特定の状況における適切な行動を示すｓｓｔ課題を使用して学ぶ。 ＜読み書き能力の向上＞ 目的: 発達障害のある子どもたちの特性に応じた読み書き能力を高める。 活動例: 文字の認識: ビジョントレーニング・コグトレ課題を行っている。またカードを使って文字マッチングをする。。 言葉を作る（書く）練習: カードやプリントを使って書く練習をする。 言葉を読む練習: 文字が書かれたカードと絵カードをマッチングする教具を用いて読む練習をする。 実施上のポイント 個別対応: 子どもの興味や発達段階に応じて、個別に対応することを重視します。 自立支援: 自分で選択し、行動する力を育むために、自立を促す活動を取り入れます。 反復学習: 子どもが安心して学べるよう、同じ活動を何度も繰り返し、集中して活動できる機会を提供します
	人間関係 社会性	＜アタッチメント（愛着）の形成と安定＞ アタッチメント（愛着）の形成 環境の整備：こどもが自分のペースで探索し、安全を感じる環境を提供します。安心感を与える家具の配置など、こどもの心理的安定を促します。 信頼感の構築：こどもが自由に選べる活動を提供し、自主性を尊重することで自己肯定感を育みます。また、安定したルーティンと親しみやすい大人の存在が、人や環境に対する信頼感を強化します。 アタッチメント（愛着）の安定 感情のサポート：感情が揺らぐとき、大人が感情の名前を教え、その感情が自然であることを説明します。これによりこどもは自分の感情を認識し、折り合いをつける能力を育てます。 「安心の基地」の役割：大人が「安心の基地」としての役割を果たし、こどもが安心して戻れる場所を提供します。また、こどもが自分の感情や体験を共有できるように関わります。 ＜遊びを通じた社会性の促進＞ 模倣行動の支援 具体的な教具の使用：具体的な教具を使って、大人や仲間の動きを模倣する活動を促進します。例えば、ブロック遊びなどの活動を通じて、社会的なスキルを身につけます。 象徴遊びへの支援 象徴遊び：簡単なごっこ遊びや見立て遊びを導入し、こどもが自分の経験や想像を表現する場を提供します。具体的には、キッチンセットでの料理ごっこや人形遊びなどを行います。 一人遊びから協同遊びへの支援： 並行遊びの促進：こどもが同じ空間で個々に遊びながら、他のこどもの存在を意識する並行遊びを促します。これにより、自然に他者との関わりを学びます。 共有遊びと協同遊び：職員が介入し、簡単なルールを設けた遊びを導入します。例えば、砂場での道具の貸し借りや、協力しながらトンネルを掘る等の遊びを通じて、社会性を発達させます。 ＜自己コントロール＞ 自己コントロールの促進：こどもの興味や能力に応じた個別の活動を提供します。 感情と行動の調整：感情カード使って、こどもが自分の感情を振り返る機会を提供します。感情が高まったときに使えるスペースを設け、こどもが自己調整できる環境を整えます。 実施方法 個別とグループ活動のバランス：こどものニーズに応じて、個別とグループ活動を適切に組み合わせます。 親との連携：親との定期的なコミュニケーションを通じて、家庭でも同様のサポートが行われるよう支援します。 評価とフィードバック 定期的な観察と評価：こどもの社会性や自己コントロールの進展を定期的に観察し、評価します。 フィードバックの提供：こどもや親に対して、達成したことや次に取り組むべきことについてフィードバックを提供します。 ＜仲間づくりと集団への参加＞ ルールの理解：集団活動の際に必要なルールを口頭とボードにかき出し説明を行い、活動のルールの理解を深める。 集団活動への参加：子どもが興味を持つ活動を選び、積極的に参加できるように支援する。 相互理解の促進：共通の目標を持った活動を通じて、互いの存在を認め合い、協力する経験を提供する。 例）クッキングや他者と協力しクリアできる活動
家族支援		＜アタッチメント（愛着）の形成＞ 虐待が疑われる子どもへの支援 目標：子どもが安心できる環境を提供し、職員との信頼関係を構築する。 観察と理解：子どもの行動や表情を注意深く観察し、個々のニーズや反応を理解する。 信頼関係の構築：一貫した対応と温かい態度で接し、子どもが職員に対して信頼感を持てるようにする。 生活に困窮している家庭の子どもへの支援 目標：基本的な生活習慣の形成と生活スキルの獲得を支援する。 生活リズムの確立：規則正しい生活リズムを確立するための環境を整え、日常のリズムを子どもと一緒に構築する。 生活スキルの支援：食事、排泄、睡眠、衣類の着脱などの基本的生活スキルを教えるための実践的な活動を提供する。 豊かな経験の提供：モンテッソーリ教具や日常生活の活動を通じて、子どもに多様な体験を提供し、自信を持てるよう支援する。 尊厳の配慮：保護者や子どもの自尊心を傷つけないように配慮し、尊重する姿勢を持つ。 外国にルーツのある子どもへの支援 目標：多文化共生の視点から子どもの困難を理解し、支援する。 多文化共生の促進：子どもが異文化に対して理解と尊重を持てるような環境を提供し、文化の違いを受け入れる姿勢を育む。 差別やいじめの防止：多様性を尊重する環境づくりを推進し、差別やいじめを未然に防ぐための教育を行う。 ＜家族からの相談に対する適切な助言等＞ 子育てに関する相談援助 目標：保護者が子育ての困りごとに対する適切な助言を受けられるようにする。 個別相談：保護者が抱える具体的な問題について、一対一で相談に応じ、実践的なアドバイスを提供する。 モンテッソーリ教育の紹介：自律的な学びや環境の重要性について説明し、家庭でも取り入れられる方法を提案する。 子どもの発達ニーズの気づきと支援 目標：保護者が子どもの発達上のニーズに気づき、適切に支援できるようにする。

<table>
<tr><td>家族支援</td><td colspan="3">継続的な支援：定期的なフォローアップを行い、必要に応じて専門家の支援を受けるための手続きをサポートする。
具体的な介助方法の助言
目標：保護者が日常生活で必要な介助方法を理解し、実践できるようにする。
実技指導：食事のとり方など、具体的な介助方法を実際に示しながら教える。
家族のレスパイトと預かりニーズへの対応
目標：保護者が適切な休息や就労の時間を確保できるようにする。
タイムケア：保護者の就労ニーズに応じたタイムケアや日中一時支援を提供し、安心して預けられる環境を整える。
保護者同士の交流機会の提供
目標：保護者が互いに交流し、情報交換や支え合いができるようにする。
交流イベント：保護者同士が交流できるイベントやワークショップを定期的に開催する。
＜障害の特性に配慮した家庭環境の整備＞
発達状況や特性の理解に向けた支援
目標：保護者が子どもの発達特性を理解し、適切に対応できるようにする。
相談援助：個別相談を通じて、子どもの発達特性やニーズについて具体的なアドバイスを提供する。
ペアレント・トレーニング：保護者が具体的な対応方法を学ぶためのペアレント・トレーニングプログラムを提供する。</td></tr>
<tr><td>移行支援</td><td colspan="3">＜ライフステージの切替えを見据えた将来的な移行に向けた準備＞
具体的な移行や将来的な移行を見据えたこどもの発達の評価・支援
具体的な移行先との調整:
移行先でも同じ教具や教材を使用できるように調整。
こどもが安心して移行できるように環境を整備。
公共の施設・乗り物使う経験や、買い物等に関する支援状況についての共有
移行先との支援方針・支援内容の共有や、こどもの状態・親の意向・支援方法についての伝達
詳細な観察記録と報告書の作成:
観察記録を基に、こどもの特性や進捗状況を詳細に記述。
親の意向や希望を移行先に共有。
家族への移行先の情報提供
移行先への相談援助とフィードバックとサポート:
移行後も定期的に移行先と連絡を取り、必要なサポートやアドバイスを提供。
進路や移行先の選択についての本人や家族への相談援助
個別のカウンセリング:
こどもと家族のニーズや希望に基づいた進路相談を実施。
＜日中一時・通級等と併行利用している場合における併行利用先との連携＞
併行利用先とのこどもの状態や支援内容の共有
共有ノートの作成:
こどもの得意不得意、コミュニケーション手段など特性やできることを記載した情報共有シートを作成し、関係者間で共有。
定期的なミーティング:
併行利用先のスタッフと定期的にミーティングを行い、こどもの状態や支援内容を確認。
併行利用の場合の利用日数や利用時間等の調整
フレキシブルなスケジュール調整:
こどもや家族の状況に応じて、利用日数や利用時間を柔軟に調整。</td></tr>
<tr><td>地域支援・地域連携</td><td>＜通所するこどもに関わる地域の関係者・関係機関と連携した支援＞
・こどもが通う学校との情報連携や調整、支援方法や環境調整等に関する相談援助、児童発達支援計画の作成又は見直しに関する会議の開催
・こどもを担当する保健師や、こどもが通う医療機関等との情報連携や調整
・こどもが利用する障害児相談支援事業所や障害福祉サービス事業所、他の障害児通所支援事業所との生活支援や発達支援における連携
・虐待が疑われる場合には、児童相談所やこども家庭センターとの情報連携
・児童委員、主任児童委員等地域の関係者等との連携
・個別のケース検討のための会議の開催</td><td>職員の質の向上</td><td>1. 専門性向上のための研修
専門家による研修: 専門家を招いたコンサルテーションを通じて、職員のスキルアップを図ります。
2. 資格取得支援
資格取得の推奨: 職員が保育士資格や児童発達管理者資格など、専門資格を取得することを推奨します。
3. 自己啓発の促進
学習の機会提供: 外部のセミナーやカンファレンスに参加する機会を提供し、自己啓発を促進します。
図書や資料の提供: 専門書や最新の研究資料を揃えた図書を設置し、職員が自主的に学べる環境を整えます。</td></tr>
<tr><td>主な行事等</td><td colspan="3">・外出イベント（年1～2回）…公共の交通機関の利用方法やマナーを知り使う事が出来るよう機会を設けている。
・外食・買い物（年3～4回）…地域の資源を利用し、自分が食べれる物を選ぶ・注文するや、予算内での注文・買い物や出来る様に機会を設けている。
・他事業所との交流（年1～2回）…慣れない場所や知らない人とどう接して行けばよいかを、習った事を使いコミュニケーションを取る機会を設けいている。</td></tr>
</table>